

2011年10月31日

庄原地区の斜面崩壊見学レポート

S082039 畑中 研二

実施日：2011年10月28日（金）～29日（土）

場所：広島県庄原市

■ 概要

今回の見学地は広島県庄原市である。当該地域では2010年7月16日15時半頃からの豪雨により、非常に狭い範囲で2～3時間の間に多数の土砂災害が発生している。地質は主に高田流紋岩類、吉舎安山岩類から成る地域である。

■ 感想

➤ 第一日目

今回の見学で我々が先ず向かったのは大戸地区の治山谷止工（施工済み）現場である。ここでは谷止工の他、高田流紋岩の露頭や土石流によって上流から流された岩石や流木などの堆積物が確認できた。拳大程の大きさから1m程はあろうかと思われる礫の存在が土石流の凄まじさを思わせる現場であった。

大戸地区の次に向かったのは篠堂地区である。ここでは多数の表層崩壊が発生している様子が確認された。崩壊地には二次的な浸食を窺わせるガリー浸食や三瓶山起源のものと推定されている黒木なども確認された。今までそれほど多く斜面崩壊の跡を見てきた訳ではないが、今回のように非常に狭い範囲で多数の斜面崩壊が発生している様子を見たことがない。また、今回の災害で唯一の犠牲者が出たのもこの地区であり、土石流によって被災した集落は目を覆う惨状であった。

篠堂地区では左岸側で発生した土石流の源頭部まで林内を歩いて登った。登山途中では土石流堆積物はもちろん、大量の黒木やパイピングの様子なども確認された。また崩壊していない林内でも根こそぎ倒れている木や表層水が流れている流路も確認された。崩壊が発生した場所ではどうしても崩壊跡にばかり目が行きがちであるが、今回は直近の林内にも崩壊直前の地形や構造があることが確認できた点で非常に有意義なものであった。

➤ 第二日目

二日目は庄原で発生した斜面崩壊の発生機構等の考察・討論であった。ここでは、自分が確認できなかった物や考えることすらなかった貴重な意見・物の見方を学ぶことができた。広島大学の海堀正博さんによる「平成22年7月の広島県庄原土砂災害の概要」という話題提供では今回の災害に関する概要が非常に分かりやすくまとめられており、自身の発表のときにも参考にさせていただきたい。また、広島県砂防課の田村毅さんによる「昭和47年7月豪雨災害など備北地域の土砂災害について」の話題提供では広島でかつておきた土砂災害と砂防事業について説明され、防災事業の重要性や過去の災害についての記録の伝承などの重要性を再確認できた。アジア航空（株）の小川紀一郎さんによる「レーザープロファイラー計測から見た崩壊の形態と斜面の状況」では、大学の講義で十分に理解できなかったレーザープロファイラー計測の原理について理解することができ、有意義なお話であった。最後に有限会社太田ジオリサーチの太田英将さんによる「被災後に住民にふりかかる負担と補償」災害後に制定されてきた法と過去に被災した住民の方

の暮らし・願い、技術者のあるべき姿などについて貴重なお話を聞かせて頂いた。

このようなシンポジウムに出席したのは今回が初めてであったが非常に貴重な経験をさせていただいたと思っている。話は難しいこともあるが人と意見を交換することで新たな視点・観点、或いは知識などを養うことができることの大切さを学ぶことができた。



左：大戸地区の谷止工下流側で確認された高田流紋岩露頭と土石流堆積物

右：同現場、上流側で確認された土石流流下跡と土石流堆積物



篠堂地区で確認された多数の表層崩壊



左：篠堂地区の崩壊地に見られたガリー浸食

右：篠堂地区の崩壊地に見られた黒木層